

学校教育目標

『人とかがわり 創り出す 笑顔あふれる鉄小』～まちにふれ、土に親しみ、人から学び、ともにのびゆく鉄の子～  
 ○自ら気づき、考え、粘り強く学び続ける子を育てます。  
 ○自分らしさを生かし、他者を認め、思いやることのできる子を育てます。  
 ○健康や安全の大切さに気づき、自らの心と体を大切にすることを育てます。  
 ○まちの伝統・文化や自然環境を大切に、自らできることに取り組もうとする子を育てます。  
 ○人とのコミュニケーションを通して、相手の文化や考え方を理解・尊重し、行動しようとする子を育てます。

学校概要	創立 149 周年	学校長 玉置 恭美	副校長 本間 秀司	2 学期制	一般学級： 7	個別支援学級： 2
	児童生徒数： 187 人	主な関係校： みたけ台中学校・みたけ台小学校				

<p>教育課程全体で 育成を目指す資質・能力</p>	<p>みたけ台中 ブロック</p>	<p>小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組</p>
<p>〈主体的に物事に取り組む力〉 〈持続可能な社会を意識した行動〉 〈コミュニケーション能力〉</p>	<p>みたけ台中学校 鉄小学校 みたけ台小学校</p>	<p>社会を生き抜く力を育成するために、 『自ら考え』『自ら学ぶ』能力を身につける子ども</p> <p>・9年間の子どもの成長を見通した小中連携を推進する。 ・子ども像を共有しながら、児童生徒理解を深めるための定期的な会合を設定する。 ・家庭や地域および関係機関との連携を推進し、児童生徒が社会を生き抜く力の育成を行う。</p>

中期取組目標

伝統と歴史のあるまちにおいて、学校を軸に保護者・地域と連携し、土に親しみ、人から学ぶ体験活動を充実させることにより、豊かな心を育て、自信をもって、自ら考え自ら学び、社会を生き抜く力を育成します。  
 ○まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。  
 ○違いを認め、他者を思いやり、自分も人も大切にすることを育てます。  
 ○学んだことを自信をもって人に伝えようとする、自分にできることはなにかを考えようとする学びに向かう力、人間性を育てます。

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①漢字の習熟や学習の習慣づくり、読書習慣づくりのために、年3回の鉄漢字検定、毎週火曜日の読書タイムや読み聞かせに取り組む。②重点研究では、「主体的、対話的で深い学び」の実現を図るための授業改善に努め、3つの資質能力を育む。
担当	学力向上	
徳	道徳教育	①本校の特色である稲作活動を通して、保護者・地域と連携し、土に親しみ、人から学ぶ体験活動と食育の充実を図る。②たて割り活動を通して「自分にできることは何か」を考え、役割意識をもつことで自己実現できるように取り組み、道徳教育でも豊かな体験を生かして指導を行う。
担当	行事充実	
体	健康教育	①アイアンタイム(体育集会)に向け、ドッジボール・縄跳び・持久走を行い、体力向上に取り組む。 ②健康タイムを活用し、学校保健委員会のテーマにそって、集会や学級での実践活動を行い、児童が主体的に健康習慣づくりに取り組む。
担当	生活広報	
公開	ESD/SDGs	①田植え・稲刈り・収穫祭などの地域・保護者との協働で運営する体験学習を今後も維持することができるよう、計画を見直して改善を進める。 ②年間計画に組み込んだ栽培活動を実践し、見直し・改善を進める。
担当	行事充実	
いじめへの対応		①月1回定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認をていねいに行うことで再発防止に努める。②年3回のいじめ防止研修を実施して、全教職員のいじめに対するアンテナを高くするとともに、年3回の児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制づくりをする。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		①年度当初にキャリアステージに合う目標設定を管理職と相談し、明確にする。②チーム学年経営・ブロック制を機能させるべく、リーダーを中心に、専科も含め協働の姿勢で指導に当たる。③ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、全職員の組織的な働き方改革につなげる。
担当	教務部	
地域学校協働活動		①未来の「くろがねのまち」を担う児童生徒の健全な育成に取り組むことを目的に地域・保護者とともに充実した教育活動を進める。②教育活動の内容や目的・成果について学校運営協議会でも話し合ったり、発信したりして、「オール鉄」としての意識を高める。
担当	教務部	
児童生徒指導		①全職員が「学校のきまり」を共有して、学年をこえて指導するとともに、職員一人ひとりが多くの児童と関わることを大切にする。②職員会議内に児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。③「YーPアセスメント」を活用し、多面的な児童理解と具体的な支援・指導を実践する。
担当	生活広報	
特別支援教育		①一般学級と個別支援学級の連携強化に向けて、ブロック研に積極的に参加し、個別支援級担任が学年通信と個別支援級学年通信の連動を図る。②特別支援委員会を毎月行い、情報を共有して保護者のニーズを確認し、効果的な指導や交流に生かす。
担当	特別支援委員会	